
私説イソップ ―ロバと仕事―

西宮尚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私説イソップ ― ロバと仕事 ―

【Nコード】

N2519C

【作者名】

西宮尚

【あらすじ】

あるところにロバがいました。ロバは、皮なめし職人のところで皮を運ぶ仕事をしていました。ショートショートのイソップ私説寓話集です。

あるところにロバがいました。

ロバは、皮なめし職人のところで皮を運ぶ仕事をしていました。

ロバは、皮なめしの仕事を見て嘆きました。自分も年をとったり病
気やけがをすれば殺されて皮を剥がされるだろうと。

ロバは皮なめし職人に提案しました。

「このままでは、安心して仕事が出来ません。私の皮は剥がさない
ことを約束して下さい。」

皮なめし職人は、皮を運んでもらえなくなるのを恐れて約束をかわ
しました。

しかし、このような訴えを行うロバをうとましく思い、石職人に売
ってしまいました。

ロバは、石職人のところで石を運ぶ仕事をはじめました。

命の危険はなくなりましたが、石を運ぶのは重くきつい仕事でした。

ロバは石職人に提案しました。

「石は荷車を作って、それに乗せて運ぶ方がいいのではないでしょ
うか？ そうすれば量も2倍運べます。」

石職人は2倍運べる案に納得しました。ロバも負担が軽くなること
を喜びました。

そして、そのような提案を行うロバの話を、粉職人が聞きつけて、
石職人からロバを譲り受けました。

ロバは、粉職人のところで粉を運ぶ仕事をはじめました。

粉を運ぶのは石より全然軽いのですが、粉が舞って全身が粉っぽく
なります。

粉職人はロバに言いました。

「粉の仕事は、このように全身粉だらけになって、通りを歩くとす

れ違う人に迷惑がかかります。何か良い提案はないでしょうか？」

ロバは、ここで夢から覚めた。

ここは、皮なめし職人の納屋であつた。

ロバは、粉職人のところで働いて粉だらけになることを嘆き、他の仕事に変われるように神に祈つた。

石職人のところに移つて、石が重いことを嘆き、他の仕事に変われるように神に祈つた。

そして、皮なめし職人のところに来て、いよいよ明日にも皮を剥がされるところであつた。

この話は、現在の状況に不満を持つたらその不満を解決する策を考えること、もしくは、考えたことを実行することが大切なことを示しています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2519c/>

私説イソップ ―ロバと仕事―

2010年11月19日08時20分発行